
【JEC-ET】020201

One More Paragraph!

- J E C の脈絡における福音主義神学的思索のひとつ -

作成日：2002年5月11日(土)

こんにちは、関西聖書学院「福音主義神学」教師、一宮基督教研究所の安黒務です。J E C の源流と歴史的遺産をさぐるために、今週は宇田進先生の「福音主義キリスト教と福音派」の「第二章 福音派の源流と歴史的遺産：第二項目 使徒的キリスト教と福音派」のテキストからの第一回目の学びをいたしましょう。

【テキスト】

聖書が福音(エバンジェリカル)という場合、それはほかでもなく初代教会の使徒たちが宣べ伝えた使信(メッセージ)そのものを指しています。現代は、方法とか、成果とか、実存ということが強調され優先される時代です。しかし、ストットⁱは、ローザンヌ会議ⁱⁱの講演の中で第一世紀の使徒たちの宣教にふれ、その中で最も中心的なことは、実に方法でも成果でもなく、使信(メッセージ)そのものであったと語って注目されました。

【解説】

共立基督教研究所での内地留学を終えて、関西聖書学院の講師として復帰しましたときに、宣教学に加えて担当するようになりました科目が「現代福音主義神学研究」という講義でした。それは当時「教理史」と「現代神学」を担当されていまして大川正巳師が健康の関係で冬場を中心に十分な講義数をとることができなかつたので、その穴埋めとして始められました。この学びは「教理史」と「現代神学」の学びの応用学であり、私たちのルーツとアイデンティティを探求する最適の学びでした。

第二項目「使徒的キリスト教と福音派」を学ぶときの第一のポイントは「現代は、方法とか、成果とか、実存ということが強調され優先される時代です。」という箇所でした。そのときには、「聖書の使信」よりも「方法とか成果とか実存」を徹底的に追及した典型としてアメリカにおけるテレビ伝道の様子から学びました。それを詳述はできませんが、概要は以下の通りでした。

初期のテレビ伝道は、レックス・ハンバードなどの家族による賛美と古き良きアメリカの大家族を印象づけるものでした。しかし、1960年代以降の人種問題やベトナム戦争などによるアメリカ社会の先鋭化の中で、その状況にふさわしい新しいメッセージとスタイルをもったテレビ伝道者が登場してきました。それらの代表者として五人の伝道者があげられます。パット・ロバートソン、オラル・ロバーツ、ロバート・シューラー、ジム・ベーカー、ジミー・スワガードたちです。

ジム・ベーカーのメッセージは「健康と富の神学」とも言われ、インタビューで病気の癒し、家庭の幸せ、事業の成功の証しに対して「イエスさまのおかげですね。」とコメントするものでした。彼は集金能力にも卓越してしまっていて「テレビ放送を続けるのに五百万ドルが早急に必要です。」と訴えたりしていました。しかし同じ時期に高価な別荘や高級車を買っていき、「ベーカーの涙」という彼独特の特技を用いていたと非難されました。彼は年収と視聴率でトップ・ランクに位置するようになり、「クリスチャンのディズニー・ランド」といわれるプロジェクトをすすめましたⁱⁱⁱ。しかし、入居希望者と入居のキャパシティとの

ギャップ等の問題を指摘され、詐欺罪で訴えられ、何百年かの刑期の刑を受けました。

ジミー・スワガードは、恵まれた音楽的才能、人を引き付けるユニークな話し振り、既成の宗教や教派への激しい攻撃等、多くの話題を提供してきました。特に彼の武器である歌をふんだんに使用しており、「川がある」という彼のゴスペル・アルバムは爆発的な人気呼びました。彼の説教は講壇を前にして静かに語りかけるのとは違い、広い舞台をマイクや聖書を手にして縦横無尽に動きまわり、「ハレルヤ、ハレルヤ、イエスさまはまもなくやってきます。時間はもはやないのです。」と大声で叫び、また時にはささやくような小声で「聖書こそ真実なのです。」と身をかかめながら語りかけるのでした。彼が他の伝道師と異なる点として注目されているのはその攻撃的な言動にありました。リベラルな教会に対してだけでなく、保守的な教会に対しても歯に衣を着せずに意見を述べていました^{iv}。そのような言動の影響もあったのでしょうか。彼はやがて彼の敵が用意した「売春婦」の手に落ちてしまいます。そしてその行為の光景がビデオ撮影され公開されることになりました。彼は一度「姦淫の罪」を悔い改め、奉仕を再開しますが、再び同じ罪を犯し、奉仕の舞台から去ることになります。

テレビ伝道自体に問題があるのではありませんが、激しい視聴率競争による行きすぎたテレビ信者と献金の獲得競争は、「使信」よりも「方法、成果、実存」を誤ったかたちで重視する傾向を生んだように思います。

-
- i ストット：英国の福音派（エバンジェリカル）のリーダーのひとり。
 - ii ローザンヌ会議：1974年にスイスのローザンヌで開催された世界伝道会議
 - iii 生駒孝彰「ブラウン管の神々」ヨルダン社、1987、pp.127-137
 - iv 生駒孝彰「ブラウン管の神々」ヨルダン社、1987、pp.138-145